

# 瑞宝単光章を受章

## 柴田 崇さん(64歳・幾寅)

永年にわたり町の消防業務に尽力された柴田崇さん(幾寅)が叙勲(瑞宝単光章)を受章され、6月30日役場において、樺谷信雄上川総合振興局副局長から伝達されました。

昭和49年4月に富良野地区消防組合に就職以来、平成22年3月定年まで36年の永きに渡り消防職員として、町民の生命と財産を守るために尽力されました。

在任中は、火災発生時や交通事故等救急活動では、いち早く現場に駆けつけ消火活動又は人命救助にあたりました。

また、消防団員の教育訓練や後輩の指導育成に努められ、職員の士気と資質の向上に尽力されました。

この度の栄誉は、こうした永年の功績が高く評価されたものであります。柴田さんは、この度の受章にあたり「叙勲をいただ

くことができ感動しています。長く職員を続けてこれたのは周りの支援のおかげであり、感謝しています」と喜びの言葉を述べられていました。



### 短歌

#### 南富良野短歌会

病床に折鶴もちて訪れし孫にいやされ治らなくては  
相川 敏治

名のしらぬ小鳥の囀りしきりなる早朝の庭にルピナスと立つ  
阿部 巖

球根を植えて芽を出す嬉しさよご先祖様にお花一輪  
大居 貞子

望みいし短歌の友との交わりも病みて口惜し息子の許へ  
鍛冶場 渉子

一人居は寂しすぎると言いし姫ホームに入るを決めて今朝発つ  
菊池 仁子

物探しあつた疲れたこの場所になんであそこに疲れが戻る  
後藤 敏江

ミニハウス今年のじよろは重いけど伸びた水菜を孫にもあげて  
小林 吉枝

初夏なのに峠の樹々の濃緑も一葉一葉は寒さに耐えて  
佐藤 すみゑ

生きている今日の幸せ思う日の曾孫顔見せ笑いふりまく  
鈴木 文代

畑仕事終えて娘へ手紙書く行間に土の匂いこもらせ  
橋 見 さえ子

大正の部品ありきと戯言は進む医学の恩に浴せり  
三宅 スエ

時しにも苗物植えて風よけを二人は無言で山を見上げる  
山内 千代

# 東北・北海道地区水源林造林協議会創立50周年記念式典開催(7月19日)

「東北・北海道地区水源林造林協議会」が本年、創立50周年を迎えることから、東北・北海道地区水源林造林協議会主催による記念式典が保健福祉センターみなくろで関係者約120名を集め盛大に行われました。

来賓に中谷元・今津寛両衆議院議員、荒川裕生北海道副知事、古久保英嗣北海道森林管理局長等がご臨席の中、林政審議会会長でもある岡田秀二岩手大学教授(農学博士)をお招きし「緑の産業革命とセンターへの期待」と題して、記念講演が行われました。岡田教授は講演の中で「現在の石油文明社会



開会宣言する池部町長

は都市中心で農山村が衰退するなか、緑の産業革命とはこの構造を変える事であり低炭素循環型社会に向けて政策構想と政策実践へ移行するため、自然再生エネルギー利用を基軸に構想し、地域・地方に軸足を置いた経済社会になる。日本は山国であり、森林国家で国土全体が温暖化する中、ガス吸収工場として山村の時代が始まる。そして天然林から人工林へ、世界中からではなく自国の森林で、国産材が目ざれ所有から利用経営へ、私有から共有へ、透明性、持続性、公正性が基本になる。」と講演を閉じられました。

また第2部として全国水源林造林協議会連合会長でもある中谷衆議院議員から「政治等の時勢」と題して、記念講演が行われました。

「当造林協議会は50年前の東京オリンピック開催の年、高度経済成長真っ盛りの山も儲かる時代に、道内では帯広空港が開港した時に発足され、集団就職で上京し、子が東京生まれ東京育ち東京で就職し故郷が東京になっていく。人口の半分の人には故郷の訛りも無く、テレビでコンピューターでゲームをし、本だけで育ち、総合的な人格、教養の存亡に関わる問題で疑問に思っている。裏山で木材チップという



記念講演する岡田教授

エネルギーを取り、庭で野菜を作ればスーパードに行くなくても生きていける。都会で生活している人には出来ない。地方で生きている人は実際に豊かに人生を楽しんでいる。林業も里山資本主義を取り入れて自伐林業を、今までは森林組合へ任せていたが、余暇時間を利用して作業をして自分の山として自覚してほしい。」と講演を閉じられました。

大震災の津波に遇われ逝去された故曾根哲夫元岩手県金石森林組合長が、東北・北海道地区水源林造林協議会会長賞には、古内榮輝元東北・北海道地区水源林造林協議会会長(元宮城県水源林造林協議会会長)及び谷口徹元東北・北海道地区水源林造林協議会副会長(元北海道水源林造林協議会会長)が受賞されました。



ラーチでの鏡開き